

四三九四番

大君おほきみの 命みこと恐かしこみ 弓ゆみのみた さ寝ねか渡わたらむ 長なが
けこの夜よを

ひとり 竜田山たつたやまの桜花さくらばなを惜をしむ歌一首うた

四三九五番

竜田山たつたやま 見みつつ越こえ来こし 桜花さくらばな 散ちりか過すぎな
む 我わが帰かへるとに

ひとり 独ひとり江かうすい水うに浮うかび漂たふ糞こつみを見み、貝玉かひたまの寄よらぬ
を怨うら恨ちみて作つくる歌一首うた

四三九六番

堀江ほりえより 朝潮あさしほみ満みちに 寄よるこつみ 貝かひにありせ
ば つとにせましを

むろつみ 館かどの門かどに在ありて江かうなん南なんの美うるはしき女をみなを見みて作つくる
歌一首うた

四三九七番

見渡みわたせば 向むかつ峰をの上への 花はなにほひ 照てりて立たて
るは 愛はしき誰たが妻つま